

新品種の紹介

耐倒伏性と多収性を両立させた夏播き用エンバク極早生品種「K78R7」

【開発の背景】

エンバクの夏播き・年内収穫栽培は、自給飼料の端境期である冬季に粗飼料を供給できる栽培体系として広く普及していますが、その栽培は安定多収生産がポイントになります。そのため、年内に収穫できる極早生性に加え、多収性と耐倒伏性を両立する品種が求められていました。そこで、カネコ種苗株式会社との共同研究で既存の多収品種と同程度以上の収量性と最強レベルの耐倒伏性を兼ね備えた「K78R7」を育成しました。

【品種の特徴】

多収であることから多くの県で奨励品種などに採用され、広く普及している「品種A」と比較し、「K78R7」は出穂の早さ、草丈は同程度ですが、収量は同程度かやや多収で、耐倒伏性は明らかに優れています。その耐倒伏性は、既存品種の中で最強レベルの「九州16号」や

「品種B」と同程度の強さを持っています(表1, 図1)。また、冠さび病や葉枯性病害の病害抵抗性にも優れており、近年、一部地域で問題になっているひょう紋病の病害程度も低くなっています(表2)。

【期待する活用場面】

これまでに九州、関東地域を中心に、22カ所の農家圃場で試験栽培を実施しましたが、特に問題は指摘されませんでした。倒伏に強いことは、鹿児島県の現地試験でも明らかになりました(図2)。今後、「K78R7」の普及で、エンバクの夏播き栽培が、より安定多収に繋がることを期待しています。

なお、新品種「K78R7」の種子は共同研究を行ったカネコ種苗株式会社から、商品名「アーリーキング」として入手できます。

【畜産草地研究領域 桂 真昭】

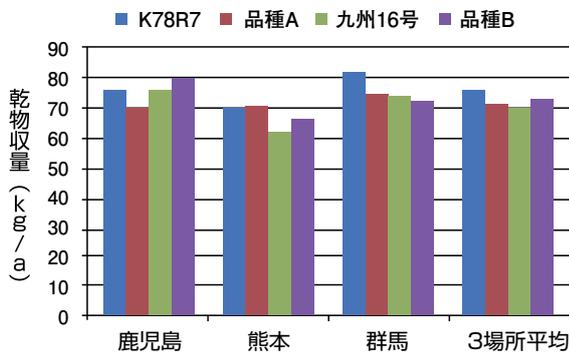


図1 9月上旬播種での収穫性
注：育成機関の試験地での試験成績



図2 鹿児島県農家圃場での倒伏発生状況

表1 エンバク「K78R7」の夏播き栽培(9月上旬播種)における生育特性

	K78R7	品種A(標準)	九州16号(比較)	品種B(参考)	備考
出穂まで日数	55	53	49	43	3場所・6試験の平均値
倒伏程度 ¹⁾	2.5	5.0	2.7	3.3	3場所・5試験の平均値
草丈(cm)	125	124	110	117	3場所・6試験の平均値
乾物率(%)	16.7	14.9	16.3	16.5	3場所・6試験の平均値
穂重割合(%)	9.2	7.7	8.6	9.7	3場所・5試験の平均値
推定TDN含量 ²⁾ (%)	56.0	58.3	56.3	56.6	九沖農研2012年のサンプル

注 品種A、品種Bは他機関育成品種

1) 1: 無 - 9: 甚。

2) 家畜が消化吸収する飼料中の養分含量で、出口ら(1997)の推定式(TDN=-5.45+0.89*(OCC+Oa)+0.45*OCW)で算出。

表2 エンバク「K78R7」の夏播き栽培における病害程度

	K78R7	品種A(標準)	九州16号(比較)	品種B(参考)	備考
冠さび病	1.0	4.3	1.0	1.0	1場所・1試験の平均値
ひょう紋病	1.3	2.5	4.2	1.4	1場所・3試験の平均値
葉枯れ性病害 ¹⁾	2.3	4.0	2.4	3.2	2場所・5試験の平均値

注 値は評点で、1: 無 - 9: 甚。 品種A、品種Bは他機関育成品種

1) 主に葉枯れ病。